

次代の教育など考える諮問機関 池坊文科 副大臣、発足

2007 年 10 月 01 日朝日新聞

福田内閣でも留任した池坊保子・文部科学副大臣が9月末、二つの私的諮問機関を発足させた。

このうち、「次世代の教育を考える懇談会」は、政府の教育再生会議や中央教育審議会（文科相の諮問機関）と一線を画し、長期的な視点で教育のあり方を考えるのが目的という。

副大臣が自ら選んだ15人のメンバーは多彩。安西祐一郎・慶応義塾長や陰山英男・立命館小副校長ら教育関係者、北城恪太郎・日本IBM最高顧問ら経済人、警察庁出身の竹花豊・元東京都副知事ら行政経験者もいる。

26日の初会合では、家庭と地域の教育力の低下が学校へ及ぼす影響などを議論。半月に1回会合を開き、年度内に報告書をまとめる予定だ。

一方、神戸市で高校生が自殺した事件などを受けて、いじめと携帯電話・インターネットの問題について考える会議も発足。いじめ自殺が問題化した昨年11月にできた「子どもを守り育てる体制づくりのための有識者会議」が、携帯やネットの問題に特化して再編成された。

28日の初会合で、群馬大の下田博次教授（社会情報学）は「携帯電話の普及で、起きてから寝るまでずっとインターネットを使えるようになった。この問題に家庭だけで対応するのは難しく、全く新しい仕組みを作らないといけない」と述べた。会議は毎月1回程度開かれ、報告書やアピールを出していく予定だ。

池坊保子
2007年10月1日